

令和6年度 大田区立安方中学校 自己評価 報告書

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価 人数 コメント	
き予個 る測別 力困難 を目標 育な1 成未 来社 会を 創 造 的 に 生	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 ②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。 ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 4 3	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、未来社会を生きたための、主体的な考え、課題解決力、情報活用能力に関連する項目での、肯定的な回答の割合	4: 90%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	生徒が予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力の育成を目的に、体験学習を含めたキャリア教育を推進している。生徒は落ち着いた学校生活を送っており、積極的に活動している。1年生の移動教室、2年生の職場体験などを通じて、来年度以降も、生徒が自己肯定感をもって他者と協働し将来を拓いていけるよう、多くの体験を図っていく。 「将来の進路や生き方について考える機会がある」について、生徒の肯定的な回答が85%、「学校全体が落ち着いた雰囲気では、自分は伸び伸びと生活している」については、生徒86%・保護者92%である。 「ICT教育推進授業モデル実証校」として培った、タブレットによる授業実践例を活用し、学習者用端末を用いた授業を常態化し、学習の充実を図った。タブレットによる調べ学習、意見交換や学習発表、アンケートの回答なども行い、生徒はICT機器を学習のツールとして、日常的に活用している。今後も生徒の生きる力の育成のため、生徒の情報活用能力を高めていく。	A 10 B 2 C 0 D 0	○職場体験に来ている中学2年生がとても熱心に学んでいると感じた。 ○「将来の進路や生き方について考える機会がある」に、生徒の肯定的な回答が高いのは素晴らしい。 ○本課題に対して従来の教育に自信があるものの、新しい教育法や新技術に対して若干不安がある事が読み取れます。 ○引き続き、改善策を進めて下さい。 ○授業を参観し、生徒は落ち着いた学校生活を送っていた。
担世個 う界別 目材つ 標をな 2育が 成る国 際都 市お おた を	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみがながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。 ②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。 ③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 3 3	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、国際都市おたを担う、英語力、国際理解、我が国や郷土の伝統や文化の理解に関連する項目での、肯定的な回答の割合	4: 90%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	「英語数学の少人数の授業はわかりやすい」について、肯定的な回答は生徒92%で、「総合的な学習の時間では、各テーマに応じて考えをまとめて発表している」は84%で、高水準であった。今後も生徒理解に努め、英語力やコミュニケーション能力の育成を行う。 また、修学旅行や社会科見学の体験学習において、総合的な学習の時間を用い、日本の伝統や文化についての学習や校外学習当日の体験を行い、日本文化を尊重する心や国際感覚の育成を図っている。 各教科や特別な教科道徳において、現代社会の様々な課題に対して考え、持続可能な社会に向け行動する力の育成を行っている。今後は、各教科横断的であり、計画的・継続的な学習を図っていくことが課題である。	A 9 B 3 C 0 D 0	○少人数英語指導は間違いない、成果を上げていると評価できる。 ○英語の能力を高める指導もさることながら、激動の世界から、何をテーマに取り上げ、どう考えさせるかについて、先生方に十分勉強していただきたい課題です。 ○引き続き、改善策を進めて下さい。 ○英語の少人数授業を見ました。今後も同様の取り組みが重要と考える。 ○外国語の実践的なコミュニケーションは、少人数制で進められるので、英語での授業も対応できるようなのでありがたい。
基一個 礎人別 とひと 目標る り3力 がを 育性 と能 力 を 発 揮 す る た め の	児童・生徒が豊かな人生を生きようとして、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 ②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。 ③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 4 3 4	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、豊かな心や確かな学力、健やかな体の育成に関連する項目での、肯定的な回答の割合	4: 90%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%以上	「特別の教科道徳では、資料などが工夫されたりして、充実している」について、肯定的な回答は生徒90%であり、保護者は87%である。道徳地区公開講座では、大学教授を講師として招請し、教員の道徳授業力の向上を図るため、校内研修を実施している。 「英語数学の少人数の授業はわかりやすい」は生徒の回答が92%であり、「授業はわかりやすく、充実している」は生徒の回答が89%である。ICTを含めた授業の工夫により、習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援が図られていると考える。さらに生徒の基礎学力の定着、学習習慣の定着、タブレット使用の恒常化をねらい、毎週末にタブレットに課題を配信し、家庭学習として取り組ませた。また、昨年度に続き放課後補習教室や土曜補習教室を実施している。 「自分は、基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている」は生徒の回答が85%である。校舎改築工事により、学習環境で生徒への負担を強いっているが、学区小中学校の施設活用などの工夫を行い対応している。「自分は、給食の内容や献立に満足している」は生徒の回答が90%である。毎日の献立を「通信」として各学級へ配布し、月2回「食育だより」を発行するなど、啓発活動を行った。また、保護者対象の「給食試食会」を実施し、保護者に向けた食育活動の充実を図った。 区定例の年4回の小中一貫教育の日による研修会や情報交換会のもとより、近隣小中学校との連携や情報共有を適時行い、円滑な連携した教育を図っている。	A 11 B 1 C 0 D 0	○校舎改築中に体力向上に対しての生徒の意識が高いことは特筆すべきだと思う。 ○「心身の健康や体力の向上に努めている」に対し、生徒の多くが肯定していることは良い。 ○ICTが個別の生徒の得手・不得手のデータを的確にフィードバックし、個別対応に適切に活用していた点に期待します。健康や食育の分野が評価3になっている所は気になります。 ○男女が共に乗道を行っているのを見た。今後もジェンダーレスの機会が増えるのを良しと考える。 ○合唱コンクールに小中学校の音楽の先生が来られていたり、とても良い風景だったと思います。何名か生徒の能力を引き出す先生がおられるように思い、こちらも引き込まれる時があります。
学個 校別 力目・ 標教 4師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。 ②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。 ③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	4 4 4	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、教師の授業力、学校の組織的な運営力、魅力的な環境づくりに関連する項目での、肯定的な回答の割合	4: 90%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%以上	「授業はわかりやすく、充実している」は、肯定的な回答が生徒90%であり、「先生は、授業の工夫や改善を進めている」は、生徒の回答が92%である。全教員を対象に、大田区及び生徒の研究会発表会や研修会、指導教諭の授業参観等に積極的に参加させた。研修等で得た知識や技法を校内で共有することで、さらに教員全体の指導力を向上を図っている。また、学期ごとの校内研修を始め、ICT支援員による通時の研修を実施し、教職員のICTを含めた授業に関する知識や技能を高め、教育活動がさらに充実したものになるよう図っている。 また、学習補助員や不登校支援員、部活動部外指導員などの区の施策を活用し、10人以上のスタッフを運用することにより、教育活動の充実を図るとともに、教職員の業務適正化を行い、生徒に教員が向き合う時間や授業・行事の準備や保護者対応の時間を確保することを行っている。本校の放課後の時間は、職員室に教員の姿はなく、部活動・生徒の補習・生徒や保護者対応を行っている。	A 11 B 1 C 0 D 0	○今後中学校でも教科「おたの未来づくり」が導入されるため、より深い小中教員連携による教師力向上を期したい。 ○「授業はわかりやすく、充実している」は、先生方の御努力のおかげと感謝。 ○先生方が教育スキルを高める努力をする事は、素晴らしいことです。その努力を褒めたいと感じ、成果が出たときに達成感を感じられる環境を是非作っていただきたいです。 ○教師の皆様のご努力に感謝します。わかりやすく、充実した授業の継続をお願いします。 ○タブレットを使った授業は、事前準備がかなり必要と思う。教員の皆様、努力がうかがえる。
の自個 学分別 びら目 をく5 援い きま い き と 生 き る た め	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えようとすると、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。 ②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。 ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	4 4 4	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、個に応じた教育、教育相談機能、生き生きとした学びに関連する項目での、肯定的な回答の割合	4: 90%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%以上	「学校全体が落ち着いた雰囲気では、自分は伸び伸びと生活している」は、肯定的な回答が生徒86%・保護者の回答は92%であり、「学校における自分の役割(活躍の場面)があり、居場所があると感じている」は、生徒・保護者とも88%である。また、「先生は、生徒の悩みや相談ごとなど、よく聞いてくれる」は、生徒の回答が87%である。本校は生徒の自己肯定感の伸長を目標として、教師と生徒の関係づくりを進めている。また、学級活動、生徒会活動、部活動を中心とした生徒の「自主・自立性」を育てる教育活動を積極的に行い、様々な活動を通じて、生徒の自己有用感を高めている。 また、学期ごとに学級状況調査やいじめ調査を実施し、早期対応や解決を図っている。また、隔週定例の管理職・養護教諭・各学年の特別支援教育コーディネーター・スクールカウンセラー・特別支援教室専門員による教育相談部会を実施し、配慮や支援が必要な生徒の情報共有を図るとともに、効果的な支援や関係諸機関との連携を協議実践している。 課題としては、本校のみでなく全国的な課題である不登校生徒の増加である。スクールカウンセラーによる面談をもとに、適応指導教室や教育センター等と今後とも効果的な連携をすすめて、改善に努める。	A 12 B 0 C 0 D 0	○困難な状況にある子供も一定の割合でいることは、今の時代当たり前になかったが、安方中は丁寧な対応をしていると感じている。 ○学校でのびのび生活でき、居場所があるというのは素晴らしい。 ○全般的に生徒の心が安定していると感じられるので、本課題はうまくいっていると思います。 ○学校全体は落ち着いた雰囲気であった。
安柔個 心軟別 で目 教創 標 造6 環 境 な を 学 習 く 空 間 と 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。 ②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 4	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、ICT環境を含む教育環境の整備や安全・安心な学校教育に関連する項目での、肯定的な回答の割合	4: 90%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%以上	「安方中学校に入学(在籍)して良かったと思う」は、肯定的な回答が生徒94%・保護者の回答は92%であり、「学校は、外部からの学習支援員等を導入したり、図書館等の効果的活用を行った」等、教育環境の整備を進めている」は、生徒86%・保護者は84%である。今年度の学校経営の重点は「校舎改築工事下での最適な学びを確立し、挑戦と進化を止めない」であり、それに伴い管理職と教職員が一体となり、学校環境の整備と安全の確保を実施した。 毎月の避難訓練の実施やオンラインによる全校安全指導を行い、避難訓練においては、池上警察署と連携し、不審者侵入対応訓練を行っている。また生徒の安全を図るため、薬物乱用防止教室やセーフティー教室も行った。 また、今年度は校舎改築工事のため、校庭で運動会が実施できず、蒲田西特別出張所の支援によりふれあいはずめまにて開催した。運動会練習もふれあいはずめまで行い、練習のための学校とふれあいはずめまの生徒の移動や練習では、PTAボランティアが見守りを行い、生徒の安全を図った。	A 12 B 0 C 0 D 0	○校庭がない中で工夫して行事を行っている。教職員の努力に感謝したい。 ○「安方中学校に入学(在籍)して良かった」と思えるということは、地域としても誇らしい。 ○中学校生活3年間通って校舎が工事中という事が分かっていても、生徒数が減らなかった事から、本校に魅力を感じている生徒保護者が多いことが喜ばしいです。 ○ふれあいはずめまでの運動会の練習、運動会当日は、スムーズに行われていた。
のよ学個 学学校 校校校 地地地 域域域 標7 つコ ミミ リ地 ュ地 ま域 すテ のイ 連 携 核・ と協 働 てに	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。 ②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。 ③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 3 3	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、地域の特色や学校・家庭・地域が連携・協働した生徒の育成に関連する項目での、肯定的な回答の割合	4: 90%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%以上	「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている」について、肯定的な回答は、生徒は91%、保護者は92%で、昨年度より2%高い数値であった。学校行事を参観する機会を設けた結果だと考えられる。来年度も、工夫しながら、保護者、地域の方々へ学校を公開していく。 今年度は、年3回の学校公開、運動会や安方フェスティバルといった学校行事に、保護者参観ができるよう計画した。来年度以降も、参観方法の工夫、内容の吟味をした上で実施していく。 「学校だより、ホームページ、学年通信などは、学校の様子を知らせている」について、肯定的な回答は昨年度に続き、生徒・保護者ともに95%と高い数値であった。学校・家庭・地域との連携を深めるため、学校ホームページに、生徒の様子を毎日発信している。校外活動や部活動、大会の様子なども、可能な限り掲載している。保護者からは、学校の様子が分かってと好評であり、肯定的な意見を多くいただいた。今後も学校ホームページを最大限に活用し、本校の教育について広く地域に広め、「地域に根差した学校」として信頼を得られるよう、日々努力を続けていく。	A 12 B 0 C 0 D 0	○ホームページの毎日の更新には頭が下がる。学校の様子がよく伝わっている。 ○学校のホームページで、日々の活動状況がオープンになっている事で、地域との敷居を低くしていると感じる。 ○コロナの時期を乗り越え、保護者の参観ができるようになった。ホームページも毎日更新されているとの事、今後も開かれた学校を望む。 ○現在の副校長先生とはお話をできるで、コミュニケーションが取れてきたと思う。自己評価報告書は、少し字が小さいので、もう少し大きいと読みやすいと思う。民生委員・保護司も協力を惜しまない。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。